

名称 備北商工会(広島県)	会員数	361者	調査票A
経営発達支援事業に従事した職員数 12名 うち、経営指導員数 3名 うち、補助員数 3名 うち、記帳専任職員数 2名 うち、記帳指導職員数 3名 うち、一般職員数 名 うち、その他(派遣、パート、アルバイト)職員数 名			
※「平成29年度経営発達支援計画実施状況調査 回答要領(調査票A)」を参照の上、入力してください。 ※各項目の左側に◎の付されている項目は、今回から新たに追加された項目です。			
項目等	実施状況等		計画中の目標値
1. 地域の経済動向調査に関すること【指針③】	29年度評価	A	
①-1 地域経済動向調査件数	29年度実績	8件	8件
※共同申請の場合は各単会の地域について調査した件数を記載してください。			
◎ ①-2 地域経済動向調査の実施方法	29年度調査	A	
自治体等の公的機関調査の活用 → A			
民間調査の活用 → B			
自己資金による外部委託調査 → C			
その他 → D			
2. 経営状況の分析に関すること【指針①】	29年度評価	B	
②小規模事業者の基礎データ全般を把握している事業者数	29年度実績	297者	400者
※地域内の小規模事業者の基礎データ(業種、従業員数、財務状況)全般を把握している事業者数を入力してください。			
③経営状況分析事業者数	29年度実績	34者	40者
※経営状況分析を実施した小規模事業者数を入力してください。			
3. 事業計画策定支援に関すること【指針②】	29年度評価	C	
④-1 事業計画策定事業者数	29年度実績	27者	36者
※事業計画を策定した小規模事業者数を入力してください。			
◎ ④-2 うち、補助金又は計画申請に係る事業計画策定事業者数	29年度実績	補助金申請 8者 計画申請 3者	
※補助金(持続化、ものづくり、自治体独自の補助金等)申請に絡んで事業計画を策定した小規模事業者数を上段、計画申請(経営力向上計画、経営革新計画、自治体独自の計画認定制度等)に係るものは下段に入力してください。			
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】	29年度評価	B	
⑤-1 フォローアップ実施事業者数(うち、訪問・面談実施事業者数)	29年度実績	フォローアップ 27者 訪問・面談 27者	36者
※事業計画策定後のフォローアップを実施した小規模事業者数を上段、うち、訪問・面談によるフォローアップを実施した小規模事業者数を下段に入力してください。 延べ回数ではなく、計画策定後の実施支援を行った事業者数を入力してください。			
⑤-2 うち、売上高増加事業者数	29年度実績	(増加) 4者 (減少) 10者 (横ばい) 13者 (不明) 者	
※事業計画策定後のフォローアップを実施した小規模事業者のうち、売上高の変化について入力してください(「横ばい」は増減1%以内、「不明」は把握していない場合に計上してください)。			
⑤-3 うち、粗利増加事業者数	29年度実績	(増加) 6者 (減少) 8者 (横ばい) 13者 (不明) 者	
※事業計画策定後のフォローアップを実施した小規模事業者のうち、粗利の変化について入力してください(「横ばい」は増減1%以内、「不明」は把握していない場合に計上してください)。			
⑥-1 フォローアップ延べ回数(うち、訪問・面談延べ回数)	29年度実績	フォローアップ 247回 訪問・面談 247回	36回
※事業計画策定後のフォローアップを実施した延べ回数を上段、うち、訪問・面談によるフォローアップを実施した延べ回数を下段に入力してください。			
◎ ⑥-2 フォローアップ訪問頻度の事業者毎の差別化	29年度実績	有	
※フォロー頻度については、事業者の状況に応じて幅を持たせて良いこととされていますが、実際の頻度の差別化について、有無で入力してください。			
◎ ⑦ I T 活用の支援事業者数	29年度実績	20者	
※経理・会計等の電子化やホームページ作成、ECサイト利用による販路拡大などITを活用した支援を実施した小規模事業者数を入力してください。			

5. 需要動向調査に関すること【指針③】		29年度評価	A	
⑧-1 需要動向調査実施事業者数	29年度実績	20者	6者	
※個社の需要動向調査・分析を実施した小規模事業者数を入力してください。				
◎ ⑧-2 個社支援という観点から有効であった調査の内容を記載してください。 ※需要動向調査の内容及び調査の実施方法等について簡潔に記してください。 管内で製造されている産品40アイテムについて、モニタリング調査を行った。調査は県立広島大学に業務委託し、大学の学生が調査を実施し、担当の准教授が分析を行った。調査は「道の駅たかの」で行い、主なターゲットは旅行・ビジネス等で道の駅に立ち寄った人で、市外から来られてお土産として産品購入を検討している方となった。調査結果はそれぞれ生産者にフィードバックし、自社の販売戦略や商品開発戦略を立てる上で参考にさせていただいている。				
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針④】		29年度評価	A	
◎ ⑨-1 展示会・商談会の出展又は開催件数	29年度実績	17件	5件	
※展示会・商談会又はそれに類するものへの出展又は開催した件数を 入力してください。 出展した事業者数ではなく、出展・開催の件数を入力してください。				
◎ ⑨-2 うち、補助金利用による展示会・商談会実施件数		「伴走型」補助金	17件	
		「全国展開」補助金	件	
		その他補助金	件	
※⑨-1のうち、補助金利用による出展または開催件数を各補助金ごと に入力してください。 出展した事業者数ではなく、出展・開催の件数を入力してください。				
◎ ⑩ 展示会・商談会への参加により新たな取引先を獲得した事業者数	29年度実績	2者		
※展示会・商談会又はそれに類するものへの出展により、新たな取引先 又は顧客を獲得した小規模事業者数を入力してください。				
◎ ⑪-1 新商品の開発支援により売上又は利益率が向上した事業者数	29年度実績	者		
※新商品又はサービスの開発、既存商品又はサービスの改良支援により 売上又は利益率が向上した小規模事業者数を入力してください。				
◎ ⑪-2 うち、「全国展開」補助金を利用した事業者数	29年度実績	者		
※⑪-1のうち、「地域力活用新事業全国展開支援事業（補助金）」利用 により売上又は利益率が向上した小規模事業者数を入力してください。				
7. 地域経済の活性化に資する取組		29年度評価	A	
◎ ⑫-1 地域経済活性化に関する関係機関との協議実施件数	29年度実績	1件	1件	
※地域経済活性化に関して、地域の関係機関との協議を実施した件数を 入力してください。				
◎ ⑫-2 ⑫-1を踏まえて実施した地域経済活性化に資する取組内容を記載してください。 ※地域の関係機関との協議の結果、実施した取組について内容を簡潔に記してください。 (例)「市と協議を重ね、新たな補助金を創設した」「観光協会と協議を重ね、7月に3日間、町おこしイベントを開催した」など。 地域活性化セミナーとして「伴走型小規模事業者支援推進事業」への理解を広める取組を実施したが、その中で商工会の経営指導員が取り 組んできた経営支援事例の発表を行うとともに、県立広島大学が地域企業とともに研究を進めている地域連携事例の発表も盛り込み、お互いの 支援ノウハウに関する情報交換を行うことが出来た。				
◎ ⑬-1 経営発達支援計画策定の際の市町村との協議の有無について	協議の有無	有		
◎ ⑬-2 協議の有のうち、協議の方法について選択してください	協議の方法	対面		
※⑬-1で協議有と答えた単会のみお答えください。 協議方法について、書面でのやり取りは「メール」を選択してください。				
8. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること		29年度評価	A	
9. 経営指導員等の支援能力の向上の仕組み		29年度評価	A	
10. 支援ノウハウ等を組織内で共有する体制		29年度評価	A	
11. 施策利用状況等(その他取組状況)				
◎ ⑭ 持続化補助金申請件数(うち、採択件数)	29年度実績	(申請)	6件	
		(採択)	件	
※持続化補助金の申請件数を上段、採択件数を下段に入力して ください。				
◎ ⑮ 経営力向上計画策定支援件数(うち、認定件数)	29年度実績	(支援)	1件	
		(認定)	1件	
※経営力強化法に基づく経営力向上計画の策定を支援した件数を上段、 認定を受けた件数を下段に入力してください。				
◎ ⑯ 経営革新計画策定支援件数(うち、認定件数)	29年度実績	(支援)	2件	
		(認定)	2件	
※経営力強化法に基づく経営革新計画の策定を支援した件数を上段、 認定を受けた件数を下段に入力してください。				
◎ ⑰ ものづくり補助金申請支援件数(うち、採択件数)	29年度実績	(支援)	1件	
		(採択)	件	
※ものづくり補助金の申請を支援した件数を上段に入力してください。 うち、採択を受けた件数を下段に入力してください。				
◎ ⑱ 経営改善資金(マル経)推薦件数	29年度実績	14件		
※経営改善資金(マル経)を推薦した件数を入力してください。				
◎ ⑲ 経営発達支援資金の推薦件数	29年度実績	件		
※経営発達支援資金を推薦した件数を入力してください。				

◎ ⑳-1 経営改善資金(マル経)、経営発達支援資金を除く、融資斡旋件数	29年度実績	件
※経営改善資金(マル経)及び経営発達支援資金以外の融資(自治体等の制度融資、民間金融等)を斡旋した件数を入力してください。		
◎ ⑳-2 うち、融資実行後のモニタリング実施件数	29年度実績	件
※⑳-1のうち、融資実行後のモニタリング(調査)を実施した件数を入力してください。		
◎ ㉑ 事業承継支援事業者数	29年度実績	6者
※事業承継に関する支援を実施した小規模事業者数を入力してください。		
◎ ㉒ 創業支援事業者数	29年度実績	4者
※創業に関する支援を実施した小規模事業者数を入力してください。		

12. 経営発達支援計画変更予定の有無	無
※事業評価及び見直し等を踏まえ、経営発達支援計画を変更する予定の有無についてお答えください。	

13. 次年度以降における経営発達支援事業の改善点を記載してください。

地域の農林水産物を中心とした地域産業資源の活用による農商工連携、6次産業化の進展を図ることを意識し、地域資源を使った新たな事業展開を積極的に支援していく。

14. 他の商工会・商工会議所にも実施を勧めたい特徴的な取組を行った場合は、その内容等について記載してください。

地域活性化セミナーとして、基調講演に続いて県立広島大学の地域連携事業の事例発表と備北商工会の経営指導員による支援事例発表を行った。商工会の支援事例だけでなく、地域内の他の支援機関の事例を合わせて聞く機会を設けることで、地域小規模事業者への支援の幅の広がりを感じてもらえることが出来たと思うし、支援ノウハウの情報交換にもなり、有意義なセミナーになった。

15. その他、ご意見、ご感想をご自由に記載してください。

事業評価委員会における意見

- ・セミナーや専門家派遣だけでは商談成立などの成果につなげることが難しい。
- ・もっと「伴走型」を徹底し、商談会に専門家が一緒に行くくらいの密着度があっても良いのではないか
- ・成功事例を聞いたり先進的な取り組みを行っているところを見に行くなどの機会を増やす
- ・セミナーの後で個別相談をセットにして個々の具体的な悩みなどを吸い上げることが必要
- ・加工品は常に目新しさが求められる部分があり、同じものだと徐々に売り上げが落ちていく傾向がある
- ・連携することで変化が生じ新たな魅力ができる
- ・農商工連携への視点をもっと前面に出してもいい
- ・アンテナショップの活用をもっと図る

特別設問. 事業計画策定支援に関すること ★平成30年度進捗状況

特-1 事業計画策定事業者数	実績数		入力期限	
	30年度 第1四半期 実績	者	H30年 7月17日	
※事業計画を策定した小規模事業者数を入力してください。	30年度 第2四半期 実績	者	H30年 10月15日	
	30年度 第3四半期 実績	者	H31年 1月15日	
	30年度 第4四半期 実績	者	H31年 4月15日	
	第1四半期実績	補助金申請 計画申請	者 者	H30年 7月17日
特-2 うち、補助金又は計画申請に係る事業計画策定事業者数	第2四半期実績	補助金申請	者	H30年 10月15日
		計画申請	者	
	第3四半期実績	補助金申請	者	H31年 1月15日
		計画申請	者	
第4四半期実績	補助金申請	者	H31年 4月15日	
	計画申請	者		

※補助金(持続化、ものづくり、自治体独自の補助金等)申請に絡んで事業計画を策定した小規模事業者数を上段、計画申請(経営力向上計画、経営革新計画、自治体独自の計画認定制度等)に係るものは下段に入力してください。